

UAゼンセン まちづくり委員会 活動事例紹介

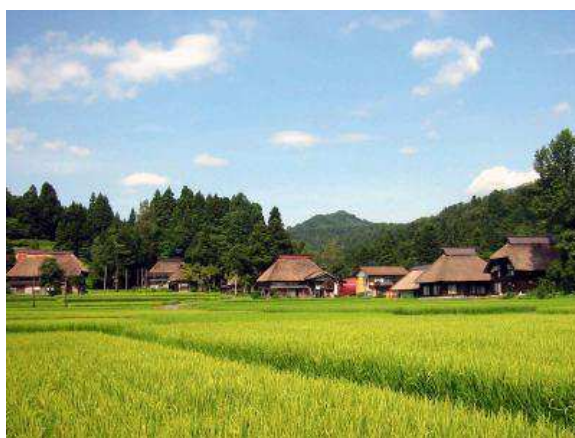
- | | |
|-------|--|
| 新潟県支部 | かやぶき集落の地域資源維持・活性化 |
| 東京都支部 | ◇震災発生時における一時滞在施設の確保
◇TOKYOブランドを探せ！UAゼンセン東京から世界に発信 |
| 大阪府支部 | 地域ブランド「泉州タオル」の活性化に向けた取り組み |
| 山口県支部 | 地域ブランド「大島みかん」の生産・消費拡大、農村と市街地の交流促進 |

新潟県支部
～かやぶき集落の地域資源維持・活性化～

- ・ 柏崎市高柳町「荻ノ島かやぶき集落地区」は、日本でも貴重な「環状集落」様式の美しい農村集落である。
- ・ 住民の高齢化により、**貴重な地域資源である茅葺き民家の維持困難、耕作放棄地の拡大、伝統行事の存続危機**といった様々な課題に直面している実態を、春日俊雄氏(荻ノ島地域協議会長・観光庁観光カリスマ)をはじめとする地域住民との交流を通じて把握した。
- ・ **長期的に当該地域の活性化に関わる**ことを前提に、新潟県支部まちづくり委員会と荻ノ島地域協議との間で、「**荻ノ島里づくり活動連携協力協定**」を締結。第1回目の活動として耕作放棄地(6アール)を開墾し、加盟組合参画のもと田植え作業を行った。
- ・ 今後は収穫物の販売支援、茅葺き屋根維持支援、あぜ道等の整備、伝統行事の維持支援等も視野に、地域との交流・協議を継続していく。



新潟県支部
～かやぶき集落の地域資源維持・活性化～



荻ノ島かやぶき集落地区



建築家 隈 研吾氏による茅葺き家屋のアトリエ

新潟県支部
～かやぶき集落の地域資源維持・活性化～



地域住民との意見交換
1回目 2014年1月15日
2回目 2014年4月15日



春日 俊雄氏（観光庁観光カリスマ）

新潟県支部
～かやぶき集落の地域資源維持・活性化～



空き家となった茅葺き民家



新潟県支部
～かやぶき集落の地域資源維持・活性化～



耕作放棄地の視察
(2014年4月15日)



新潟県支部
～かやぶき集落の地域資源維持・活性化～



里づくり協定の締結
(2014年5月25日)



新潟県支部 ～かやぶき集落の地域資源維持・活性化～

田植え作業の様子（2014年5月25日）



新潟県支部 ～かやぶき集落の地域資源維持・活性化～

かやぶき屋根の萩ノ島集落、労働組合と協定 耕作放棄地を解消

かやぶき屋根の家屋が環状に並んだ集落として知られる柏崎市の萩ノ島集落が、流通や繊維業界の労働組合でつくるUAゼンセン新潟県支部との間で耕作放棄地の解消などのための協定を結んだ。家屋の再生で専門学校とも協定を締結済み。高齢化と人口減に見舞われている中山間地の集落が存続のため、交流人口の増加を目指す。

集落でつくる萩ノ島地域協議会は、UAゼンセン新潟県支部と「萩ノ島里づくり活動連携協力協定」を結んだ。農地と集落の維持・保全で連携するのが目的で、まず農地については耕作放棄地の解消に取り組む。集落についてはこれから協議するが、道普請などの共同作業が対象になる見通しだ。

25日の締結と同時に、過去2年ほど稲作が行われていなかった集落の水田で組合員とその家族らが参加した田植え作業が行われた。県内各地から参加した組合員など約50人が、6アールの水田にコシヒカリを植えた。

協定を結んだのは「単発ではなく長く取り組むため」(UAゼンセン新潟県支部の中村弘一氏)。同支部が地域おこしで協定を結んだのはこれが初めて。特に集落内に企業や組合があるわけではないが、同支部は社会貢献との位置づけで今後10～20年かけてボランティアとして協力する考え。

「将来的には酒米を栽培して日本酒を造り、それを販売して収益を萩ノ島に還元したい」(中村氏)という。

日本経済新聞
電子版（2014年
5月28日）

東京都支部①
～震災発生時における一時滞在施設の確保～

《背景》

- ・首都直下地震発生時、**帰宅困難者の受け入れ**として**92万人分の収容施設が必要になると試算**されているが、現状、都・区施設、民間事業所等の活用により**確保**できているのは**12万人分**に過ぎない。

帰宅困難者対策



《具体的な取り組み》

- ・都の取り組み状況と、施設確保に向けた課題を把握するため「**東京都帰宅困難者対策**」**学習会（拡大）を開催**（2014年5月15日）
目的：①東京都が推進している帰宅困難者対策の理解促進、②一時滞在施設の確保の重要性に対する認識の醸成、③災害発生時のお客様への対応策の確認、④自らの行動のあり方について確認
講師：東京都総務局総合防災部事業調整担当課長 萩原功夫氏
- ・U Aゼンセン加盟の**流通サービス関連の企業の取り組み状況を調査し、課題を把握**する。
- ・一時滞在施設の更なる確保に向けて、**連合東京に対し、政策制度要求**に盛り込むよう働きかける。

東京都支部①
～震災発生時における一時滞在施設の確保～

東京都帰宅困難者対策学習会の開催（2014年5月15日）



東京都総務局総合防災部事業調整担当課長 萩原氏

東京都支部②

～TOKYOブランドを探せ！～UAゼンセン東京から世界に発信～

《主旨》

東京都支部に集う全加盟組合の参加による「まちづくり運動」として展開し、私たちが暮らし、働くまち「東京」を改めて見つめ直し再発見する機会とする。



《具体的な取り組み》

2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、世界中から集まる人々に対して自信を持ってお勧めできる、東京ならではのブランドを発掘するコンテストの開催。

～取り組みにあたって～

- ・「もの」「場所」「ひと」「こと」、加盟組合の企業のPB商品や地元自慢など森羅万象を対象とする。
- ・東京政策懇話会会員の地方議員にも参加を働きかけ。
- ・全加盟組合を対象とする投票を行い、最優秀賞と優秀賞を選出・表彰。
- ・応募があったすべてのブランドを提案書としてとりまとめ、関係各所に提出していく。

東京都支部②

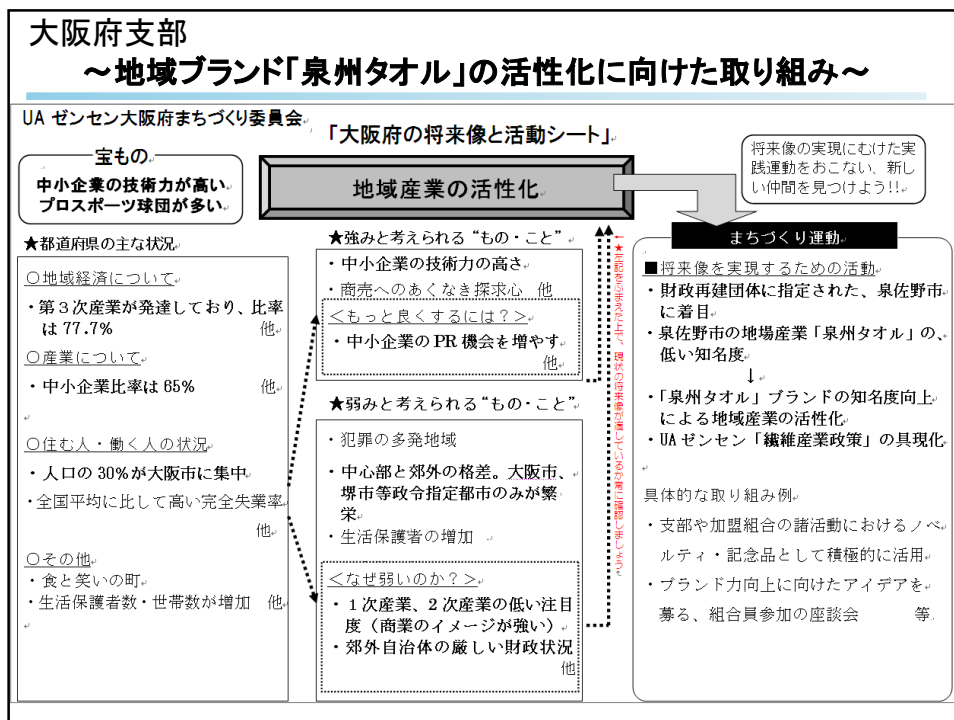
～TOKYOブランドを探せ！～UAゼンセン東京から世界に発信～

応募例 「もの」「場所」「ひと」「こと」など

種別	視点	種別	視点
もの	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 外国人に言われる(かもしれない) ちょっと風変わりなお土産 ◇ うちの企業がお勧めする地元味のPB商品 ◇ 外国人に是非挑戦してもらいたい東京発の風変わりな食べ物 例えば・・・ <ul style="list-style-type: none"> ☆八王子ラーメン(スーパーアルプスのPBとしてスタートし、現在は三多摩地区のスーパーで人気を博しています) ☆丸真正宗(23区内唯一の地酒) ☆練馬大根 	ひと	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 「これぞ生粋の江戸っ子」と言える種なおじさん、いなせな若者、不思議な特技を持つおじいちゃん・おばあちゃん ◇ 落語に出てくる熊さん、八つっあん、ご隠居、与太郎、おかみさん・・・みだいなひと 例えば・・・ <ul style="list-style-type: none"> ☆伝統工芸士 ☆OO吾人 ☆スガツ氏(東京都支部内で人気沸騰中の「恋之キャラ」、関西弁交じりの怪しい関東弁を繰る、まだの名をスガモンとも)
場所	<ul style="list-style-type: none"> ◇ ガイドブックには載っていないけど、外国人に是非訪れてもらいたいパワースポット ◇ 少し寂れているけど、なかなか味がある商店街 ◇ 東京でしか味わえないXXXを食べさせてくれる飲食店 例えば・・・ <ul style="list-style-type: none"> ☆神田ガード下の飲み屋 ☆芝商店会「激辛ストリート」 ☆御岳山 	こと	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 私が住むまちの、地味だけど歴史と伝統あるお祭り、行事 ◇ 外国人には説明が難しい、わが町ならではの風変わりな風習 ◇ 「大都市東京」ならではの暮らしの知恵 例えば・・・ <ul style="list-style-type: none"> ☆お盆に関する行事(迎え火&送り火、盆踊り) ☆深川八幡祭り(通符、水掛け祭り) ☆目黒のさんま祭り

この機会に「わがまち東京」を再発見しましょう！





大阪府支部 ～地域ブランド「泉州タオル」の活性化に向けた取り組み～


①泉州タオルの視察を実施

◆泉州タオルとは・・・


- ・日本タオル産業発祥の地
- ・国内生産されるタオルの約半分が泉州製
- ・独自の「後晒し（あとさらし）」製法
- ・UAゼンセン加盟組合もある

◆泉州タオルの現状と課題

- ・最盛期（1990年）は4万トン生産していたが、現在は海外生産品に押され、**1万トンを割り込んでいる。**
- ・同状況下において、愛媛県の「今治タオル」は、行政が一体となって地域ブランドを推進し成功事例となったが、**財政状況の厳しい泉佐野市**において、自治体の協力は限定的。現状「泉州タオル」のブランドは、**地元大阪でも十分に浸透していない。**



日本のタオル産業発祥の地として約120年の歴史を誇る大阪の「泉州タオル」伝統の後晒製法により仕上げられるタオルは、独特の心地よい風合いとおろしたてからの高い吸水性が特徴です



タオル工場視察の様子

大阪府支部

～地域ブランド「泉州タオル」の活性化に向けた取り組み～

②視察を踏まえての委員会での議論

- ・素晴らしい製品にも関わらず、大阪府在住の自分でさえ知らないほど知名度が低い。地域産業振興の観点からも、まちづくり委員会が起点となり、ブランド普及に取り組む意味合いは大きい。
- ・製造産業部門の「繊維産業政策」では、日本らしい品質やデザインをもつ良い製品を、まちづくりとのコラボレーションのなかで普及・促進することが謳われており、まさにこの内容の具現化につながると感じる。
- ・組合らしい活動のなかで、ブランドの普及につなげるべき。
- ・活動の主旨を加盟組合に広く理解してもらい、組合員をまきこんだ活動としていくべき。



まちづくり委員会の様子

大阪府支部

～地域ブランド「泉州タオル」の活性化に向けた取り組み～

③まちづくり委員会としての取り組み

⇒地域産業振興の観点から「泉州タオル」を普及し、地域ブランド化を推進する

【泉州タオルの特徴】

大阪の寝巻タオルは 水をよく吸いとります。とても清潔です。肌触りがやさしい。



◆取り組みにあたっては…UAゼンセン加盟組合に、活動の主旨を理解してもらい、加盟組合全体で「泉州タオル」ブランドを広げる

◆具体的取り組み

- ・支部や加盟組合の諸活動のノベルティとして積極活用（記念品 組合員5,800名）。
- ・「まちづくりフォーラム」の開催（6/9）（コーディネーター 総務省地域資源・事業化支援アドバイザー 勝瀬氏）
- ・ブランド向上のアイデアを募る、組合員参加の座談会を企画する等



2014.3.5賞金闘争・中央決起集会で泉州タオルを掲げる様子

大阪府支部

～地域ブランド「泉州タオル」の活性化に向けた取り組み～

「まちづくりフォーラム」概要（6月9日 開催予定）

- 目的 地域の宝「泉州タオル」ブランドを広めるための
具体策を考える
- 内容 コーディネーターを交えたパネルディスカッション
 - ◆コーディネーター
勝瀬典雄氏（総務省 地域資源・事業化支援アドバイザー
兵庫県立大学大学院経営研究科 客員教授）
 - ◆パネラー
 - ・大阪タオル工業組合加盟会社の代表者2名
 - ・小売業のMD担当者（組合員）
 - ・消費者代表（女性組合役員）



勝瀬典雄氏

山口県支部 ～地域ブランド「大島みかん」の生産・消費拡大
～農村と市街地の交流促進～

＜取り組みの背景＞

- ・ 県を代表する地域特産品に「大島みかん」があるが、**農家の高齢化による担い手不足と遊休農地の拡大**といった課題に直面。
- ・ みかん栽培は島の重要な基幹産業であるとともに、県のみかんの生産量の約8割を栽培しており、交流人口100万人を目指し、各種ツリズムの取り組みを進めるためにも、**地域ブランドの維持が不可欠**。

＜取り組み内容＞

- ・ **みかん栽培**を通じた、**農業従事者の生きがづくりや島の活性化に向けた交流促進**、「大島みかん」の知名度向上に向けた、**加盟組合におけるイベントでの活用**等。

周防大島 将来推計人口		
	2010年	2040年
総人口(人)	19,084	8,498
高齢化率	47.7	55.2



山口県支部 ～地域ブランド「大島みかん」の生産・消費拡大
～農村と市街地の交流促進～

- ・ 2014年1月26日 島内南西部の瀬戸内海に面した傾斜地にある、手入れの行き届かなくなったみかん畑（4450㎡）を、9年間に渡って地元農家と賃貸契約。



みかん畑の様子

山口県支部 ～地域ブランド「大島みかん」の生産・消費拡大
・農村と市街地の交流促進～

《みかん収穫の研修に参加》

・2013年11月7日周防大島担い手支援センターが実施している、大島みかんの収穫作業の支援にあたっての研修に参加。



大島みかんサポーター研修の様子

《みかん栽培の資格取得に向けた研修》

・みかん栽培を行うにあたっては、営農塾に通うことが必要となっている。



「周防大島いきいき営農塾」年間カリキュラム

開催日	区分	講義内容	講師
		開講式	担い手支援センター
5月8日(火)	講義	大島みかん産地について	J A山口大島
	講義	5月のみかん作業	大島柑きつ試験場
	実習	研修樹の設定、剪刈り、防除、剪刈機の使い方	柑橘同窓会
6月12日(火)	講義	6月のみかん作業	大島柑きつ試験場
	講義	農薬の安全使用と害虫防除	大島柑きつ試験場
	講義	農薬の安全使用と病害防除	大島柑きつ試験場
	実習	防除、畝肥、剪刈り	柑橘同窓会
7月10日(火)	講義	7月のみかん作業	大島柑きつ試験場
	講義	高品質化対策	大島柑きつ試験場
	講義	農機具の種類と利用、扱い方	柑橘同窓会

山口県支部 ～地域ブランド「大島みかん」の生産・消費拡大
・農村と市街地の交流促進～

《農作業に向けた遊休農地の整備》



2014年3月15日、農作業に向けた遊休農地の整備を実施した。

害虫であるカミキリムシが浸食してしまった木の伐採・切り株の除去



山口県支部 ～地域ブランド「大島みかん」の生産・消費拡大
・農村と市街地の交流促進～

《農作業に向けた遊休農地の整備》



泥が堆積してしまった貯水池の掘り起こし

山口県支部 ～地域ブランド「大島みかん」の生産・消費拡大
・農村と市街地の交流促進～

《農作業に向けた遊休農地の整備》



作業用具の収納を行なうための物置の組み立て・設置

